



横浜市の「かもマチ食堂」

3月末の水曜日、昨年10月から横浜市青葉区の地域ケアプラザで始まった「かもマチ食堂」をのぞいてみました。開催時間は15時～19時で毎月1回開催されています。参加費は未就学児・小学生は100円、中学生・高校生200円、大人は300円です。玄関を入ると子供たちのにぎやかな笑い声が響いており、下駄箱には可愛らしい靴がたくさん並んでいました。食事が始まるのは17時からですが、15時になると帰宅後の小学生が集まり始めるそうです。今回は春休み中ということもあり、会場には低学年を中心に大勢集まっていてそれぞれが、折り紙、編みもの、お絵かき、将棋、カードゲームなど好きなテーブルに座って、地域のボランティアと一緒に楽しんでいました。この時点で40人～50人の参加です。



子ども食堂のイメージ

ここ2～3年に各地で始まっている「子ども食堂」ですが、当初は貧困家庭の子どもの救済というイメージでした。しかしこれは差別問題だという意見もあり、実際には貧困でなくても働く母親が多い昨今、決まった時間に夕食を食べられない子どもが多い時代になっているのです。

地域の誰もが参加できて100円で楽しい時間が共有できる場所になればという主催者の思いが、「みんなに居場所・かもマチ食堂」になったそうです。隣席の小学4年生の男の子は「お母さんは仕事で遅く、お父さんは地方に転勤で週末しか帰れない」と言っていました。毎日、家で何をしてお過ごしているのでしょうか？

メニューは毎回カレー



原則申し込みが必要です、飛び込みもオーケーのため何人が参加するか分からないという中で、メニューは毎回カレーになったそうです。本日のように地元の方からの野菜の提供があった時は、サラダや汁物などを付けるということでした。



地域のボランティアのさまざまな支援

当日、食事前の16時半ごろから地域に住む若いピアニストの鈴木タリさんが、演奏してくれました。子どもに人気のジブリの主題歌や季節の歌をみんなで歌って楽しい時間を過ごしました。

地域にはいろいろなスキルを持った人が多くいますので、その方の発表の場にもなるのは素晴らしいことです。まさに世代を超えて多くの人と交流できる場になっていると実感できました。

運営を手伝っているのは小学校のPTA、民生児童委員、ケアプラザで活動している有志など、かなりの方がかかわっています。事故のないように帰りのお迎えや一人で帰らないように指導、場合によっては送っていくこともあるようです。

シニアができる子ども支援

元気なシニアは自分の趣味や健康のためにウォーキングを楽しんでいる人が多いのですが、未来を担うかわいい子供たちに自分のできることを提供できたら、子供たちからたくさんの元気をもたらすことができるでしょう。自分の住む地域で始まっている「子ども食堂」をぜひ一度見学してみたいかがでしょうか？何か支援できることが見つかるはずです。(Y)